



生物多様性センター企画展 今こそ知りたいクビアカツヤカミキリ研究の最前線

**クビアカツヤカミキリ（以降、クビアカ）は
サクラやウメなどのバラ科樹木を食害し
枯れさせてしまう特定外来生物で、
大阪府内においてその脅威が拡大しています。**

**おおさか環農水研生物多様性センターでは、
本種の府内における発生状況の把握と、
被害拡大防止の調査研究に取り組んできました。**

**今回の企画展では、最新の研究結果に基づいた
防除や分布拡大予測をお伝えするとともに、
生体やフラスの実物を使って被害木の見つけ方や
防除方法をわかりやすくご紹介します。**

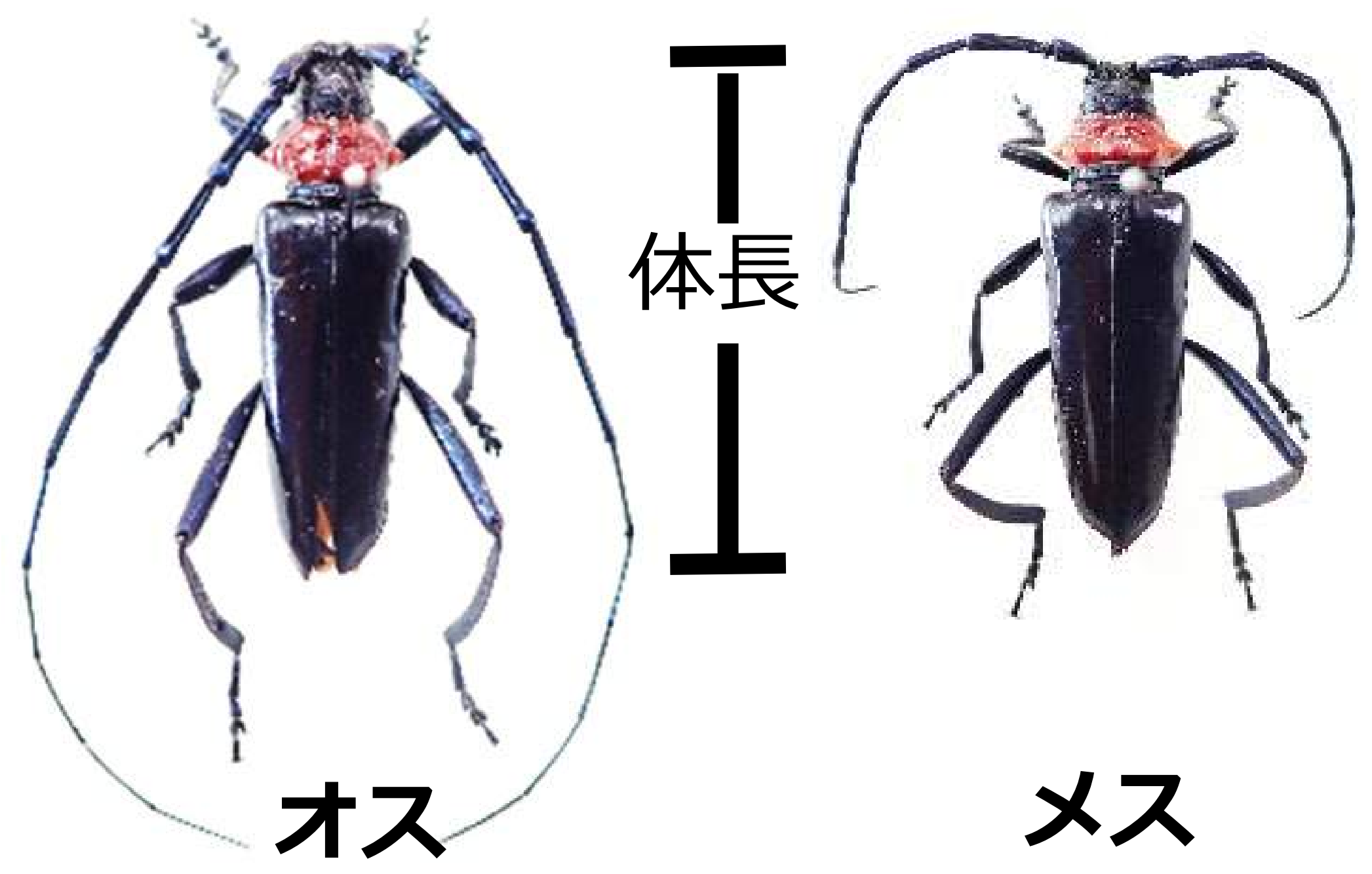
クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリ（学名：Aromia bungii）

- 分類：コウチュウ目 カミキリムシ科
- 被害樹種：サクラ、モモ、ウメなどバラ科樹木
- 特徴：からだ全体が黒く光沢がある
頭部の下（前胸の一部）が赤く、突起がある

成虫のからだの特徴

触角が体長より
オスは長く
メスは同じか短い



体長

オス メス

からだの大きさ
2～4 cm
いろいろな大きさの
個体がいる



オスとメスは
くっついていることも多い

推定される生活環（卵から成虫まで2年かかる）

成虫の発生
(6月～8月)

産卵
(6月～8月)

幼虫の摂食活動
(4月～11月)

フラスの排出



発育ステージ および 活動部位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫 / 卵 / 幼虫 1 年目 樹皮下						成虫発生 産卵・孵化	幼虫摂食活動					活動 休止
幼虫 2 年目 樹皮下→木部（蛹室）	活動 休止		春に活動再開	蛹室形成	蛹室内 越冬							
幼虫 3 年目 / 成虫 木部（蛹室）→野外					蛹							

■：成虫 / 卵 ■：フラス排出あり ■：フラス排出なし



クビアカツヤカミキリ被害 (フラス・脱出孔) の特徴

- クビアカによる被害かどうかはフラスの特徴から判別できます。
- クビアカのフラスには、①出る量が多い、②樹液と混ざりうどん状に固まる、③幹の下部や根に集中する、④粒形は薄く削られた形状である、という特徴があります。
- 成虫の脱出孔も、クビアカでは楕円形であることから、円形のゴマダラカミキリとは区別できます。

クビアカのフラスの特徴

特徴① 大量のフラス



特徴② うどん状に固まる



特徴③ 幹の下部や根に多い



クビアカとクビアカ以外のフラスの特徴

クビアカ



薄く削り取られたフラス

ゴマダラカミキリ



地際から出て、長い繊維状に裂ける

スカシバガ類



顆粒状で少量

クビアカとゴマダラカミキリの脱出孔の形状の特徴

クビアカ脱出予定孔



幼虫が蛹室に入るに直前につくる

クビアカ脱出孔



楕円形

ゴマダラカミキリ脱出孔



円形

成虫は薄く残した
樹皮を破って脱出

成虫が脱出時につくる



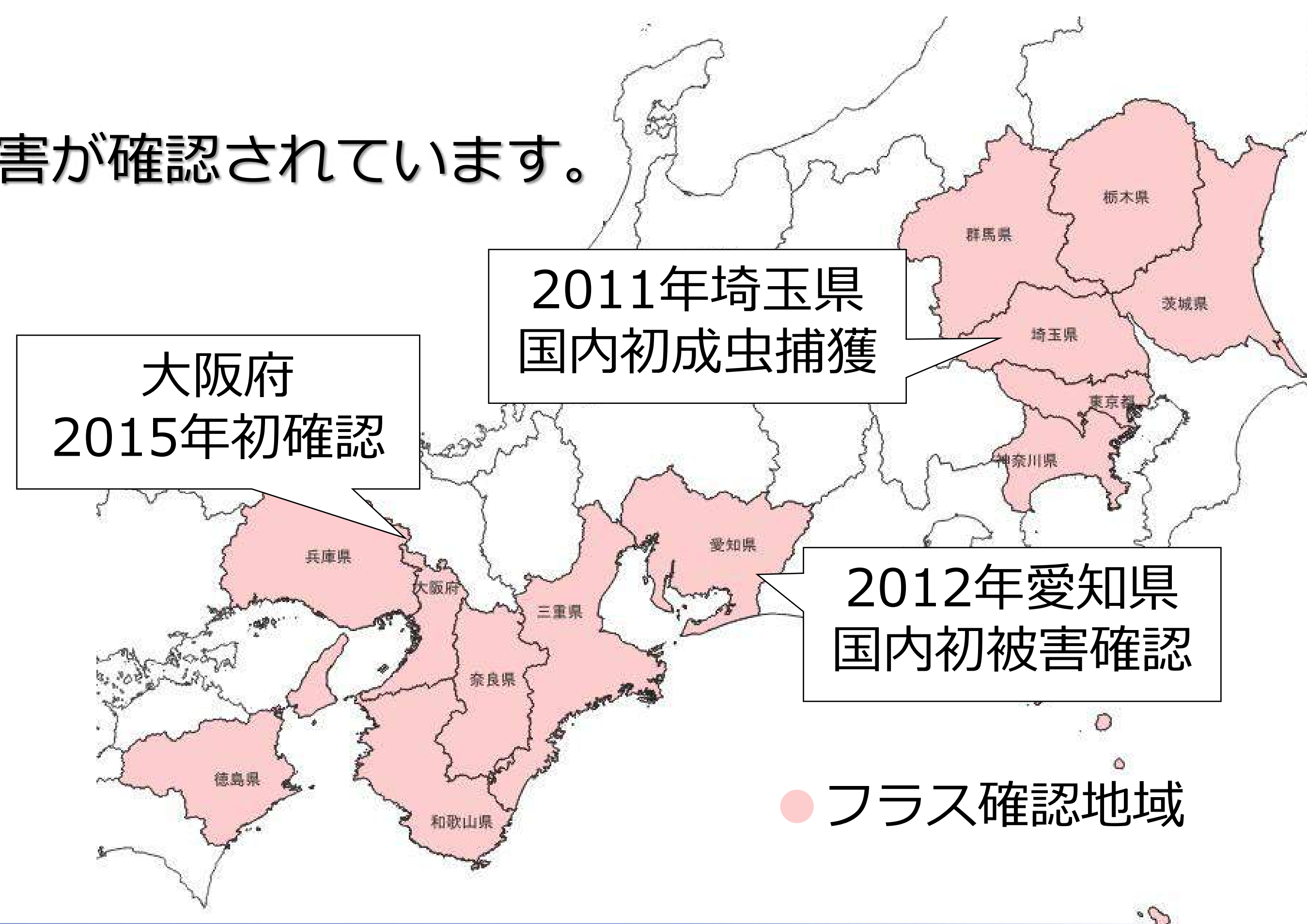
国内・近畿地方における 分布状況の変遷

- 2011年に埼玉県で成虫が初めて捕獲されました。
 - 2012年に愛知県で成虫およびフラス被害が初確認されました。
 - 大阪府は2015年に成虫およびフラス被害が初確認されました。
 - 2024年4月現在13都府県で分布が確認されています。
- (近畿地方：大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県)

日本国内における分布状況

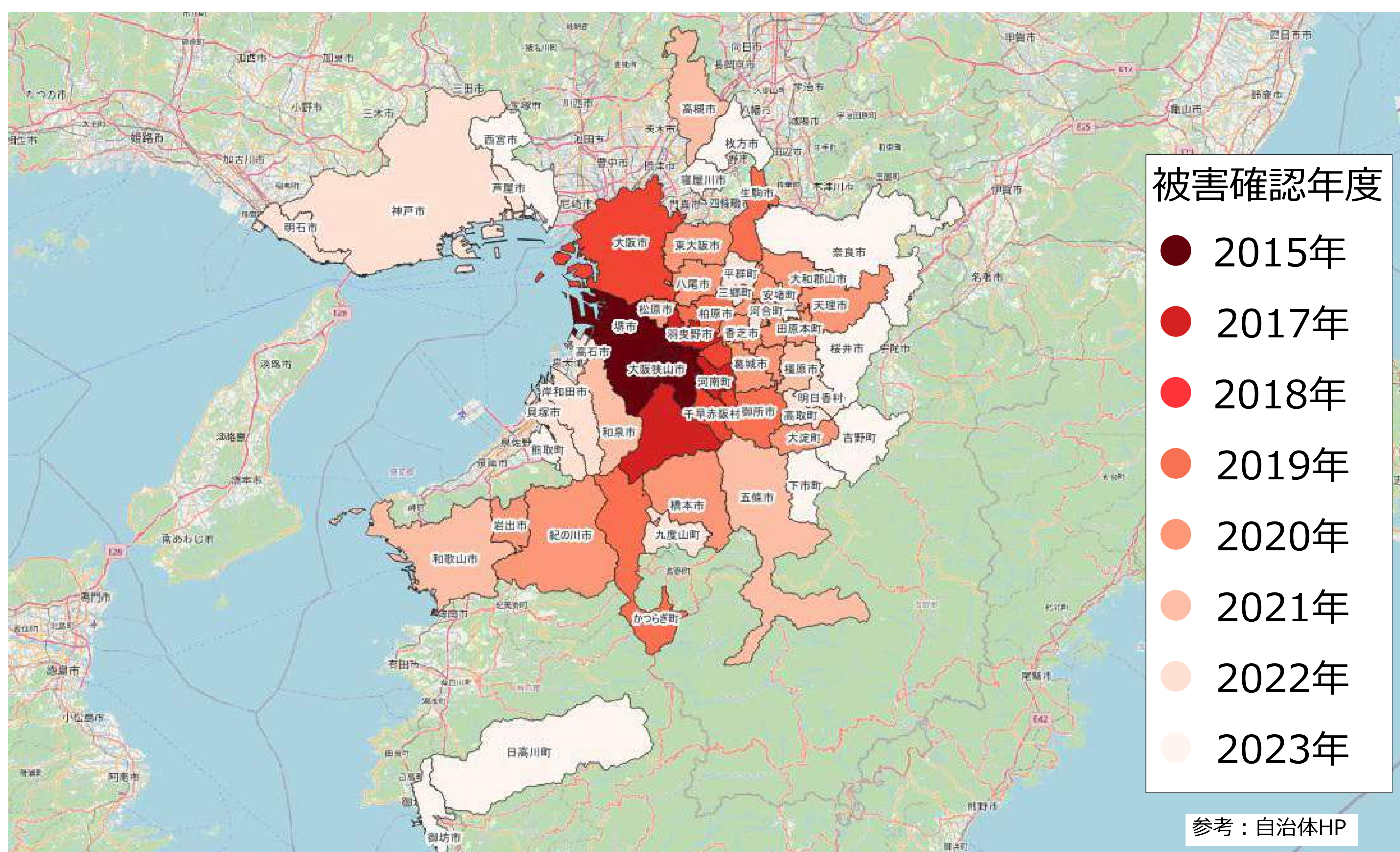
2024年4月時点、13都府県で成虫およびフラス被害が確認されています。

- 2012年 愛知県
2013年 埼玉県
2015年 群馬県、東京都、大阪府、徳島県
2016年 栃木県
2019年 茨城県、三重県、奈良県、和歌山県
2021年 神奈川県
2022年 兵庫県



近畿地方4府県における市町村別の分布状況の変遷

自治体HP等をもとに、近畿地方で被害が確認されている市町村を被害確認年度別に図示しました。





大阪府における分布状況の変遷

- 2015年7月に大阪府内で成虫およびフラスを初確認しました。
- 2024年4月現在で22市町村でフラス被害が確認されています。
- 府内市町村へのアンケート調査等をもとにした被害分布図（1kmメッシュ単位）が大阪府HPで公開されています。

大阪府における分布状況

2015年7月に大阪狭山市で成虫およびフラスを初めて確認しました。

2024年4月時点、22市町村で確認されています。

2015年 堺市、大阪狭山市、富田林市

2017年 河内長野市、河南町、羽曳野市

2018年 大阪市、太子町、千早赤阪村

2019年 藤井寺市、柏原市、

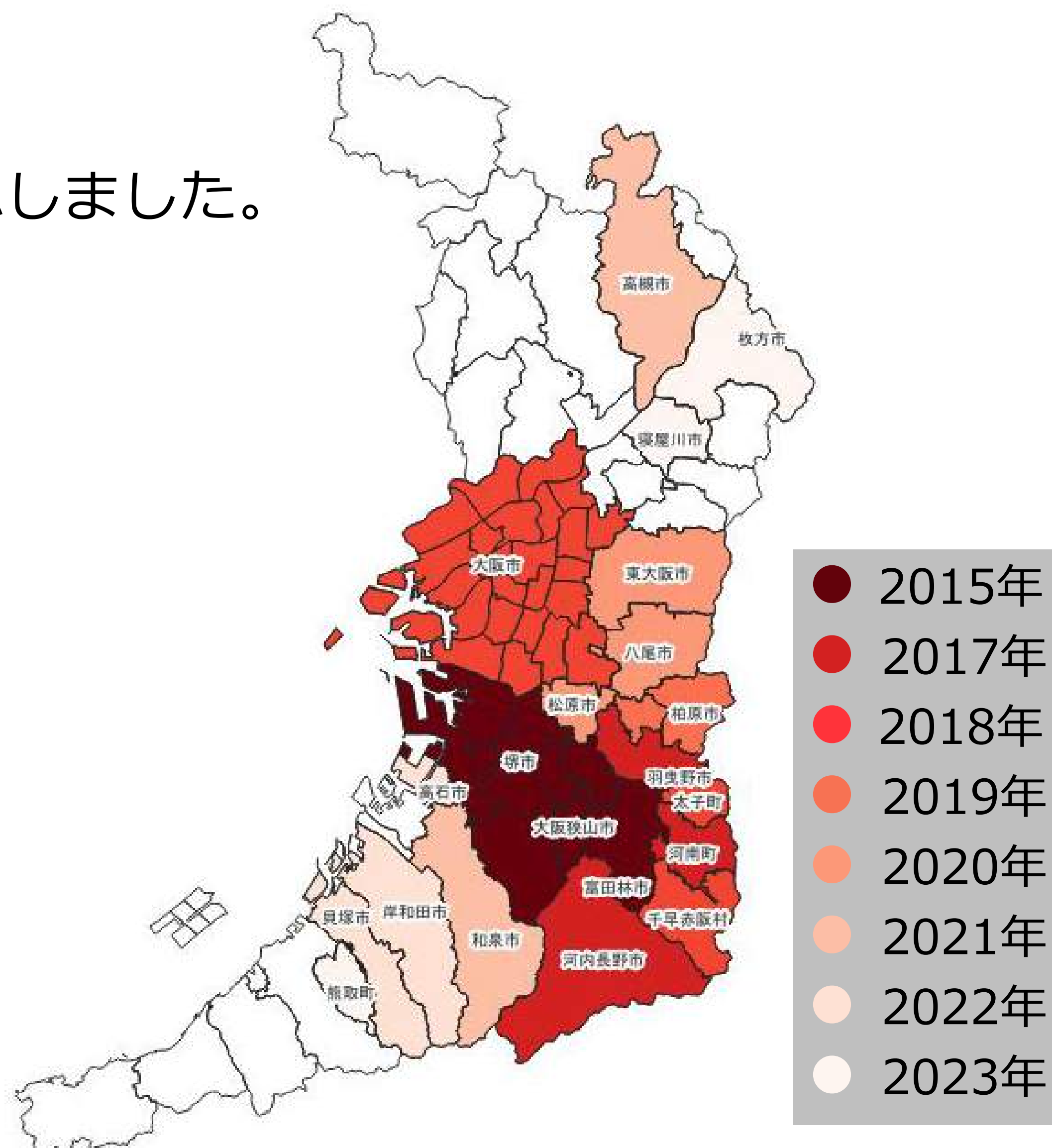
2020年 八尾市、松原市、東大阪市

2021年 高槻市、和泉市、

2022年 高石市、岸和田市、貝塚市

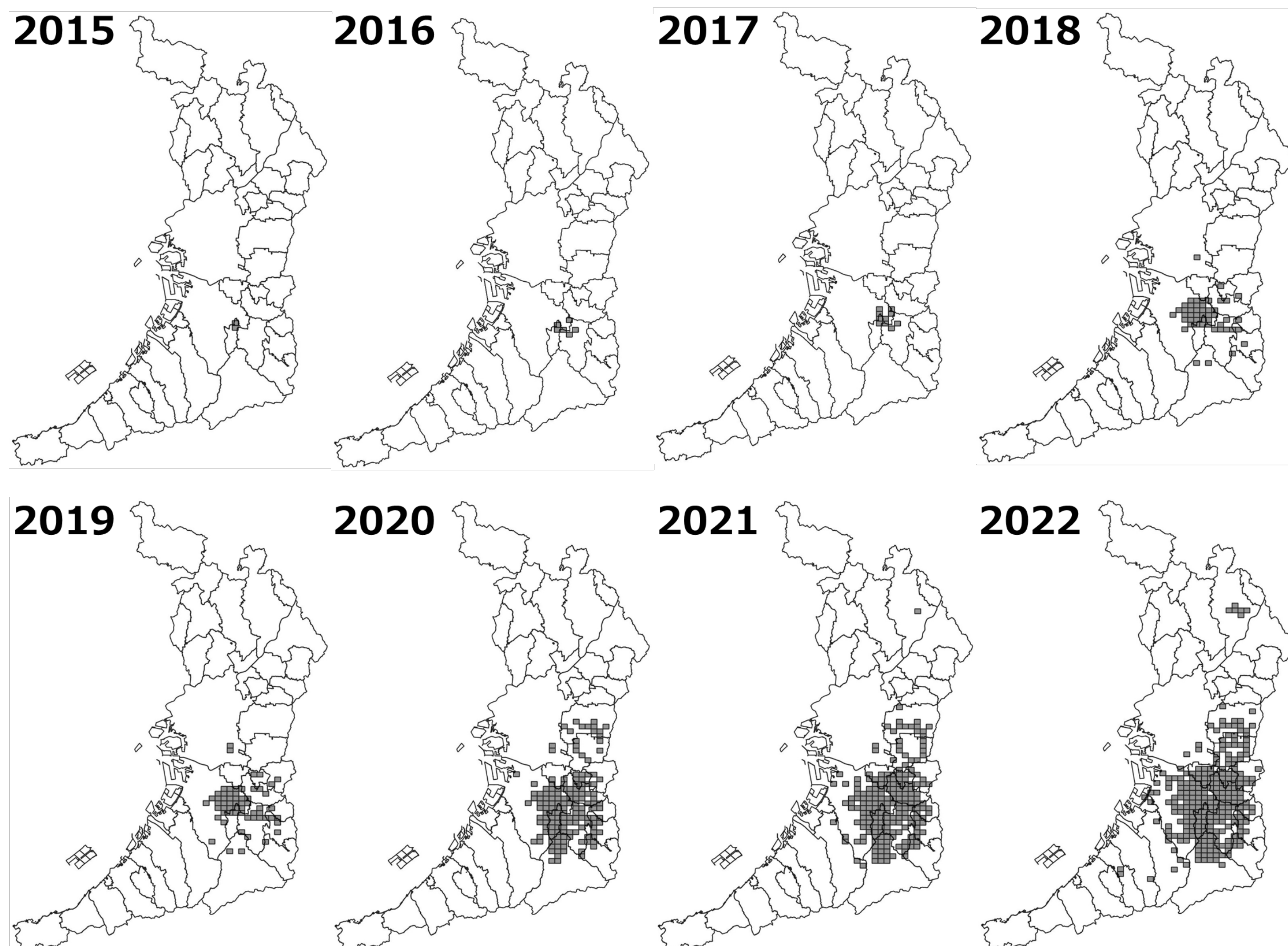
2023年 枚方市、寝屋川市、熊取町

※大東市では成虫のみ確認

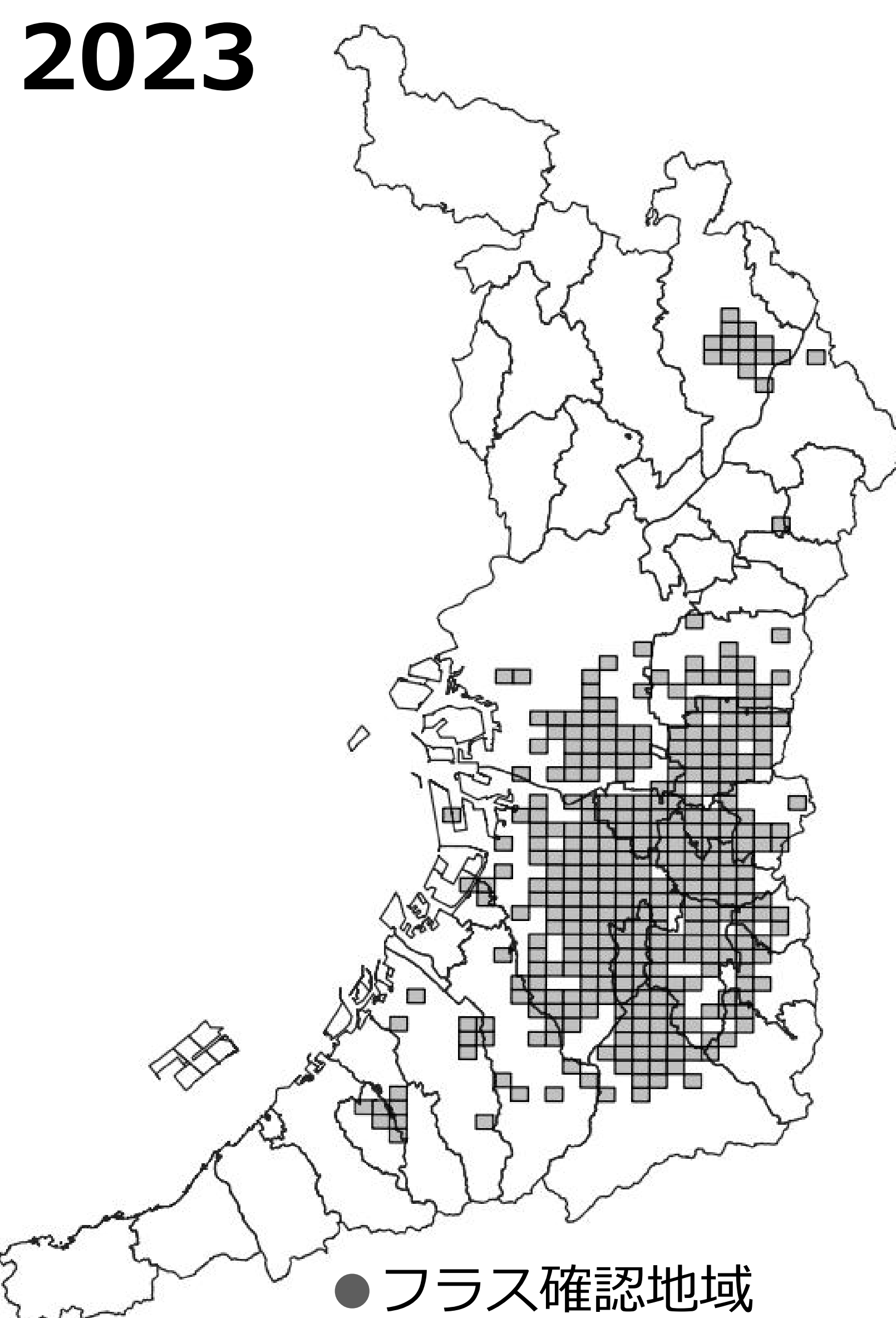


分布状況の変遷（被害分布図：2015年度～2023年度）

市町村に対する被害のアンケート調査等をもとにした被害分布図が大阪府HPで公開されています。



※2020年からアンケート調査開始



被害警戒地域と対策

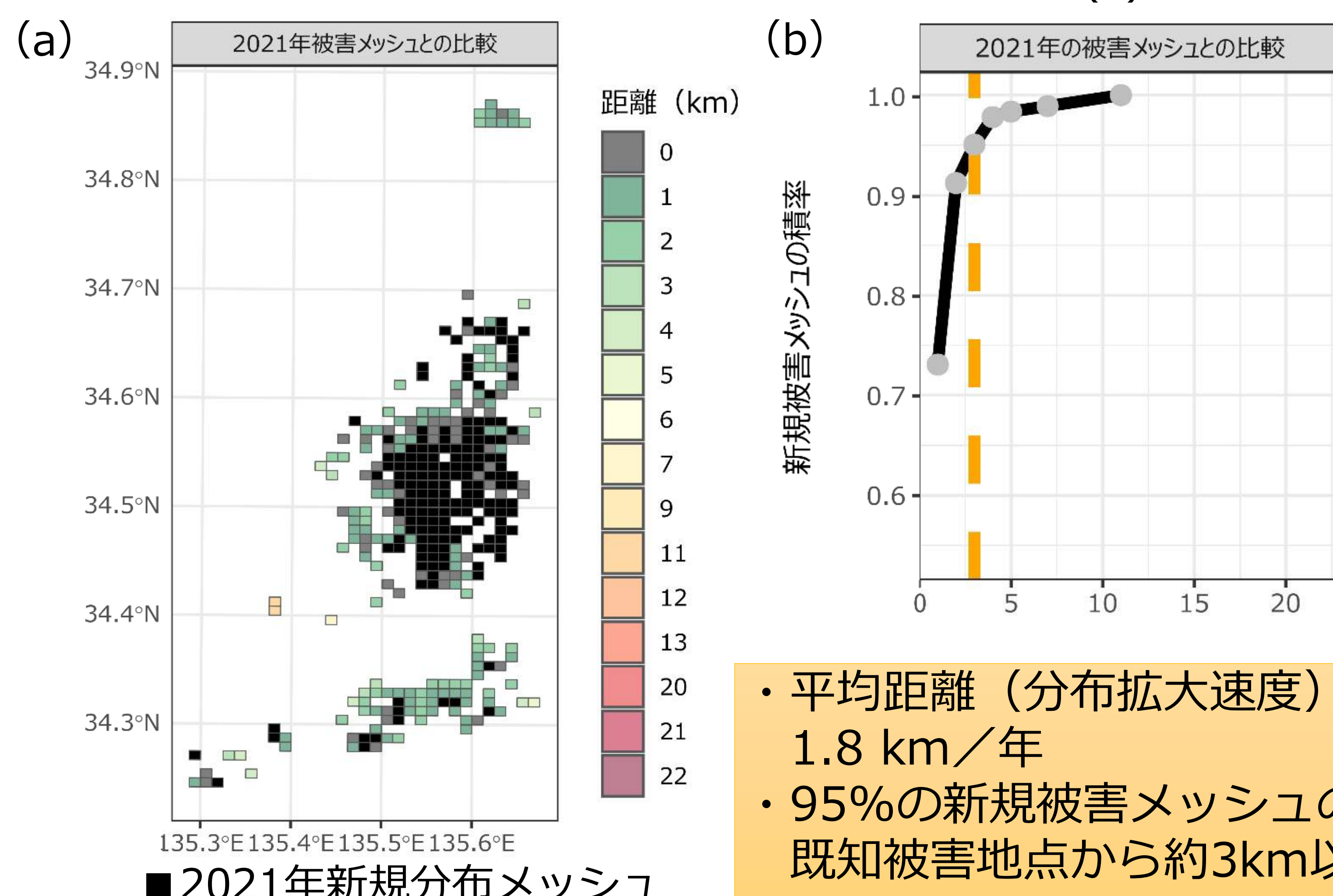
- 年間分布拡大速度は、平均約2kmと推定されました。
- 新規被害発見地点は既知の被害地点から3km以内に多かったことから、被害警戒範囲を3kmに設定した地域図を作成しました。
- 飛び地(既知点から20km以上離れた地点)でも新規被害が発生しており、被害警戒地域から離れた地域でも注意が必要です。
- 分布状況に応じた対策を地域ごとに講じることが重要です。

分布拡大速度の推定と被害警戒地域

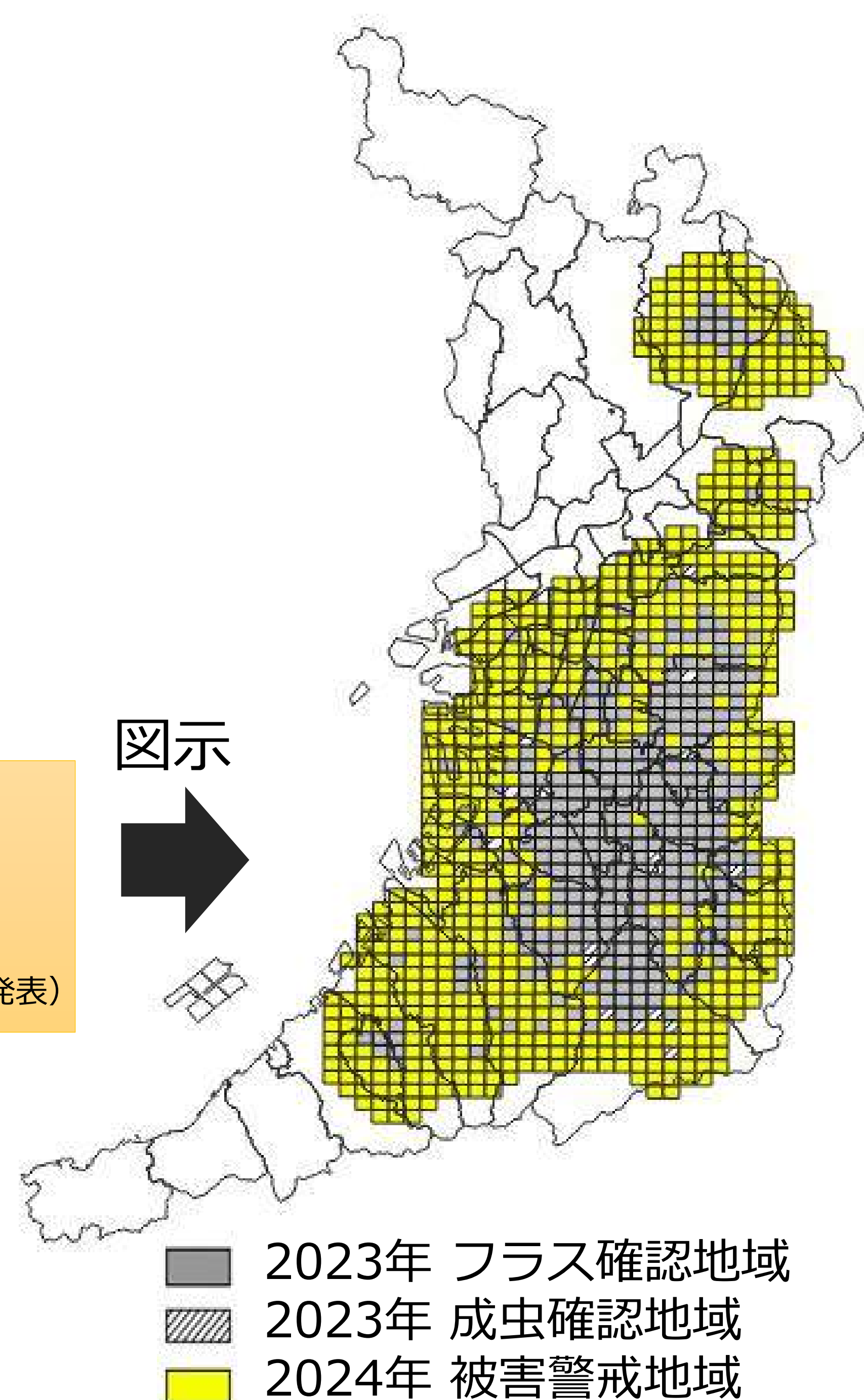
被害分布図を用いて、2022年に新たに分布が確認されたメッシュの中心点から2021年の新規分布メッシュの中心点までの距離を測定しました。

2022年新規メッシュの2021年新規メッシュまでの距離図(a)および新規分布圏の評価(b)

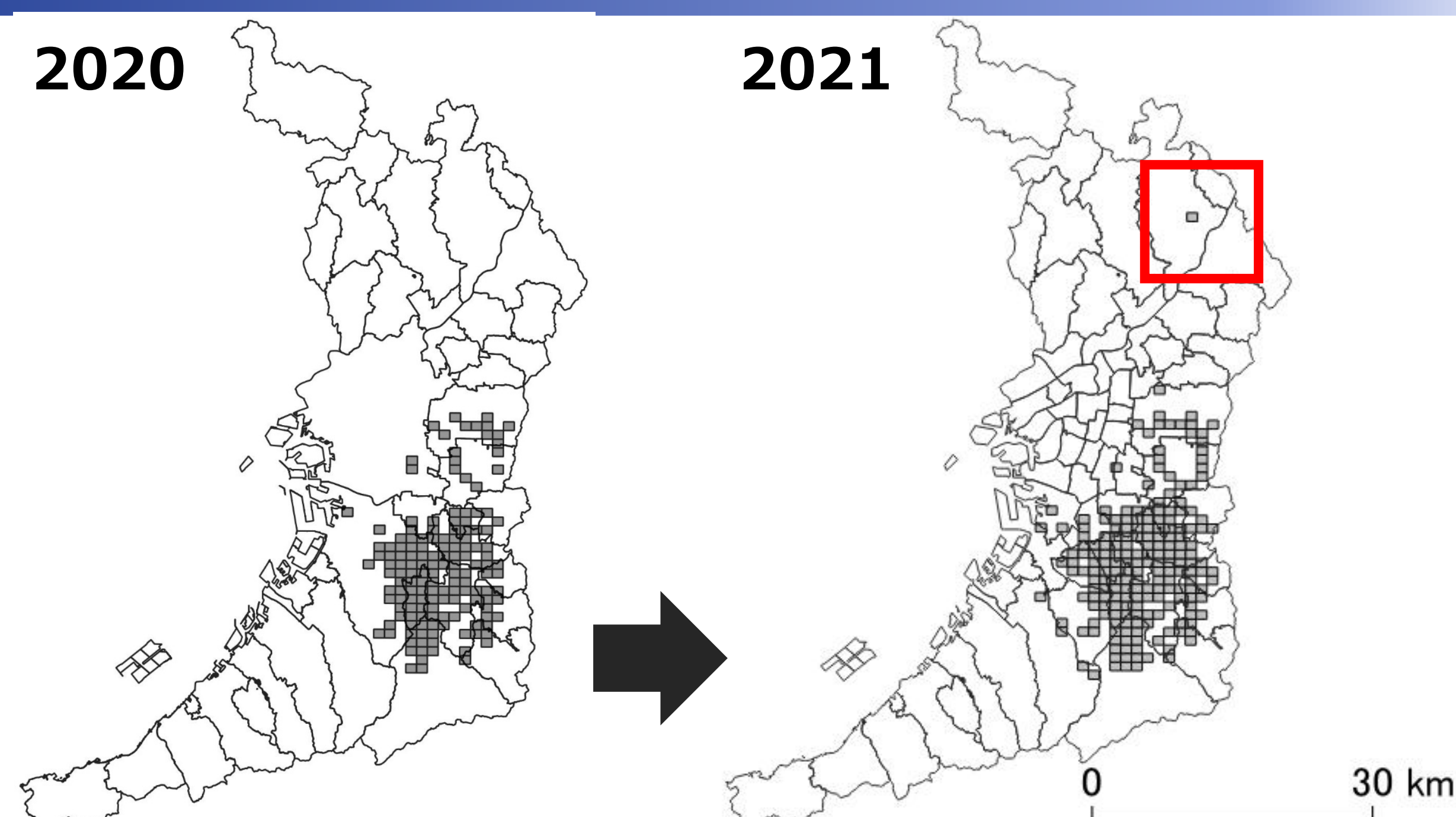
被害警戒地域図
(既知被害地点から3km圏内)



- ・ 平均距離 (分布拡大速度) : 1.8 km/年
- ・ 95%の新規被害メッシュの分布圏 : 既知被害地点から約3km以内 (原口ら, 未発表)



飛び地の発生事例



2021年に高槻市内(赤枠)で飛び地(既知点から20km以上離れた新規被害地点)が確認されました。

各地域の分布状況に応じた対策

地域の分布状況に応じた対策が重要です。

- ・ フラス確認地域 : 被害対策
- ・ 成虫確認地域 : 被害の確認調査
- ・ 被害警戒地域 : 被害の確認調査
- ・ それ以外の地域 : 周辺の被害情報収集や普及啓発



クビアカツヤカミキリを見つけたら どうしたらいいの？

- クビアカの被害拡大を未然に防ぎ、サクラやウメなどを守るためには、早期発見・早期対策が欠かせません。
- そのためには府民の皆さん一人一人のご協力が重要です。
- もしクビアカの成虫やフラスを見つけたら、各市町村の窓口や施設の管理者に知らせてください。
- 成虫を捕まえたら、持ち運ばずその場で駆除をお願いします。

府民一人一人の目で被害の早期発見を！

- 公園や街路樹のサクラなどでクビアカの成虫やフラスを見つけたら、発見場所の市町村や施設の管理者に連絡をお願いします。
- 発見日時、発見場所、発見時の状況をお知らせください。
- スマートフォンのいきもの調査アプリの活用も有効です。
- 一度被害が増加すると、対策は非常に困難になります。被害拡大を防ぐためにも、たくさんの目でクビアカを監視することが重要です。皆さんのご協力を、よろしくお願いいたします。



各自治体の連絡先など
(大阪府の啓発チラシ)

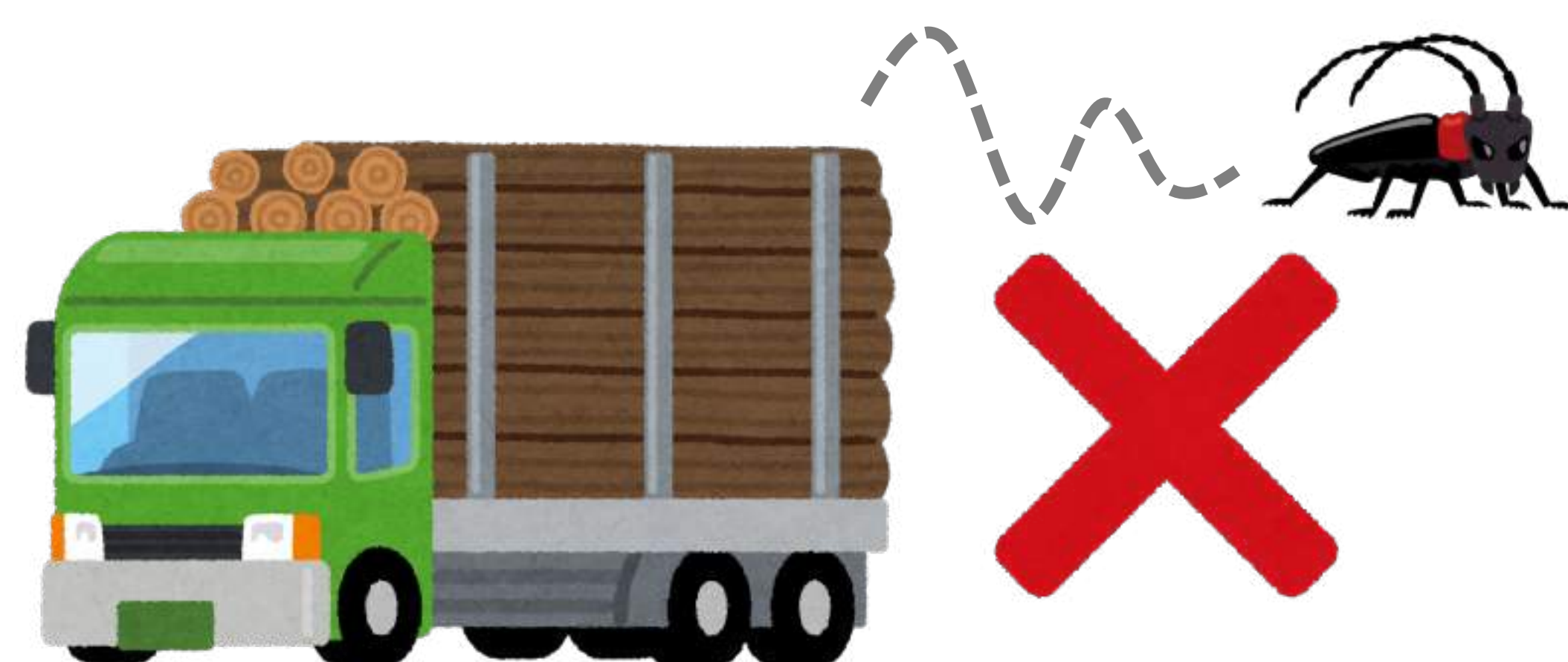


いきものコレクションアプリ
BIOME
いきものコレクション
アプリ BIOME



もし捕まえられたら、その場で駆除！

- 生きたまま持ち運ぶことは、分布拡大につながりかねず、法律でも禁止されています。
- 可能であれば、その場で踏みつぶすなどして駆除してください。
- 伐採した被害木を運ぶ際にも注意が必要です。



被害発生後の対策手法も研究が進んでいます

- クビアカ侵入後にさらなる被害拡大を防げるよう、様々な資材や農薬を用いた対策方法についても研究を進めています。
- 詳しくは後方のパネルや展示物をご覧ください。





被害対策：ネット巻き

- ネットは、木の表面との隙間をあけて巻く
- ネットの目合いは、小さな成虫が通り抜けられない4mm以下
- 被害木では、木から脱出する成虫を閉じ込め、周辺への拡散防止
- 未被害木では、メス成虫による木の表面への産卵防止

ネット巻きの概要

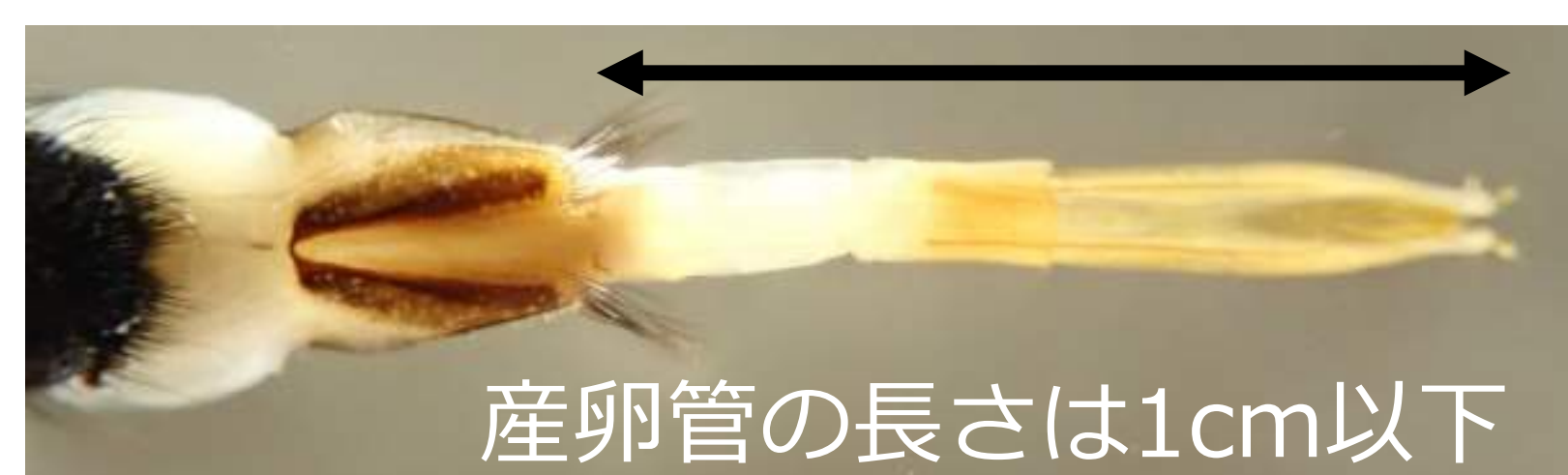
【作業時期】 10月～翌5月（成虫発生前まで）

【必要物品】 防風ネット：目合い0.4～4mm程度（市販品で良い）
固定用品（ホッチキス、ガンタッカー、ガムテープ、U字ピン）等



どこにネットを巻く？

被害部位、あるいは守りたい部位が
収まるようにネットを巻く
(目安：高さ2m程度まで)



ネットを巻くコツは？

木の表面との間に隙間を1cm以上
あける (目安：親指大以上)

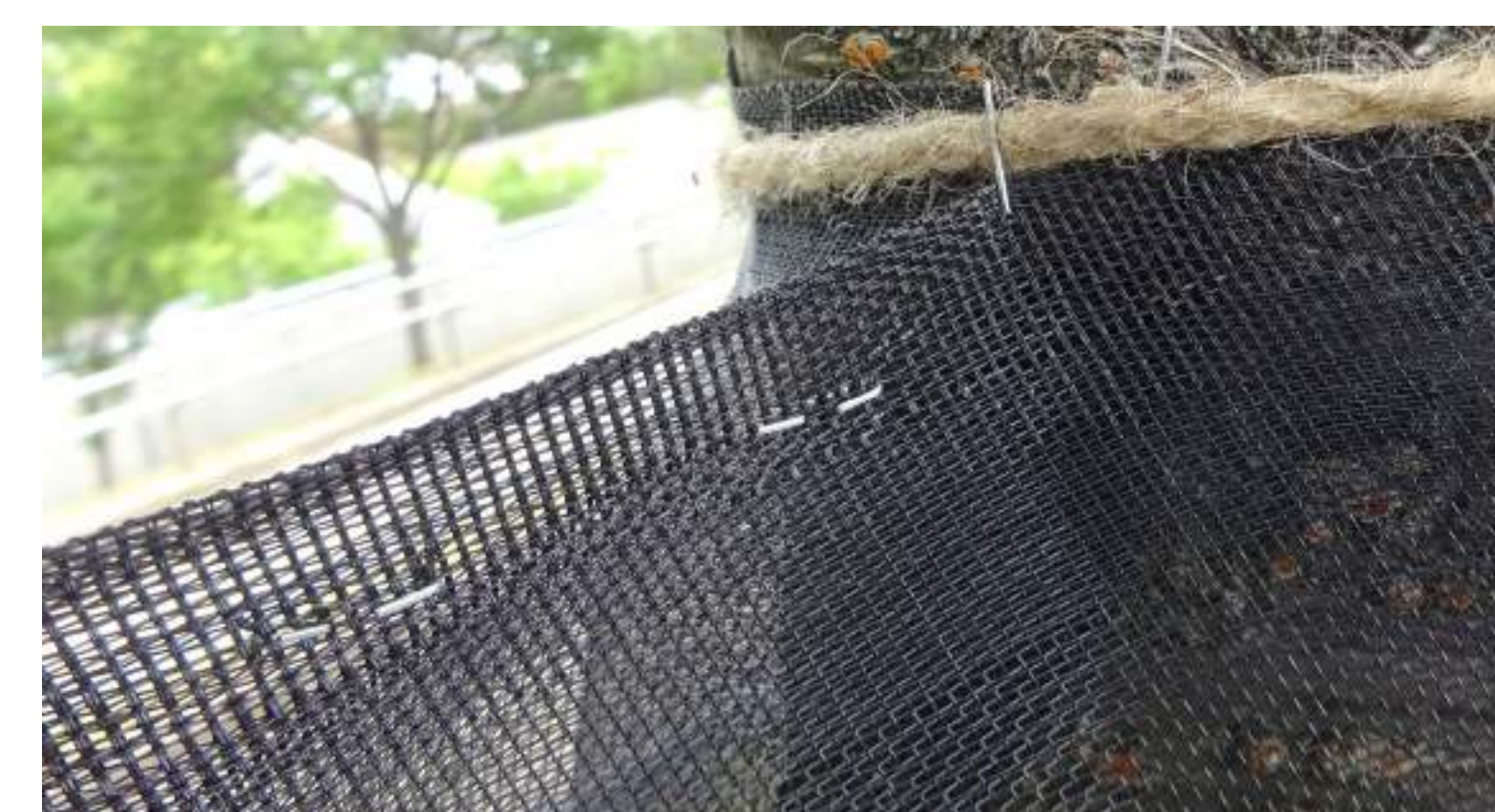


ネット上端は？

ひもやガムテープで固定する

ネット同士は？

ホッチキスや針金でつなぎ合わせる



ネット下端は？

U字ピンで地面に固定する

ネットを巻いた後は？

- ネット内での成虫の発生を定期的に見回る（週2～3回）
- 成虫は見つけ次第、ハンマー、あるいは化学農薬の噴射により殺虫する

※防風ネット等を巻き付けることが困難な部位（例えば、高さ2m以上の地点から
フラスの排出が確認された枝など）は、伐採して取り除き、適切に処分してください。

ネット巻きの詳しい
手順を動画で紹介
しています ➡





被害対策：農薬の使用と伐採処分

- 農薬の適切な使用※は、有効なクビアカ対策
- 散布や直接噴射による成虫の生息密度の低下
- 樹幹注入やフラス排出孔注入による木の中にいる幼虫の駆除
- 枯れた木や樹勢が低下した木は伐採し、破砕もしくは焼却処分

※農薬は、各農薬ラベルの登録情報の記載内容（対象作物、適用害虫、希釈倍数、使用の方法・時期・回数など）を守って使用します。

成虫対策

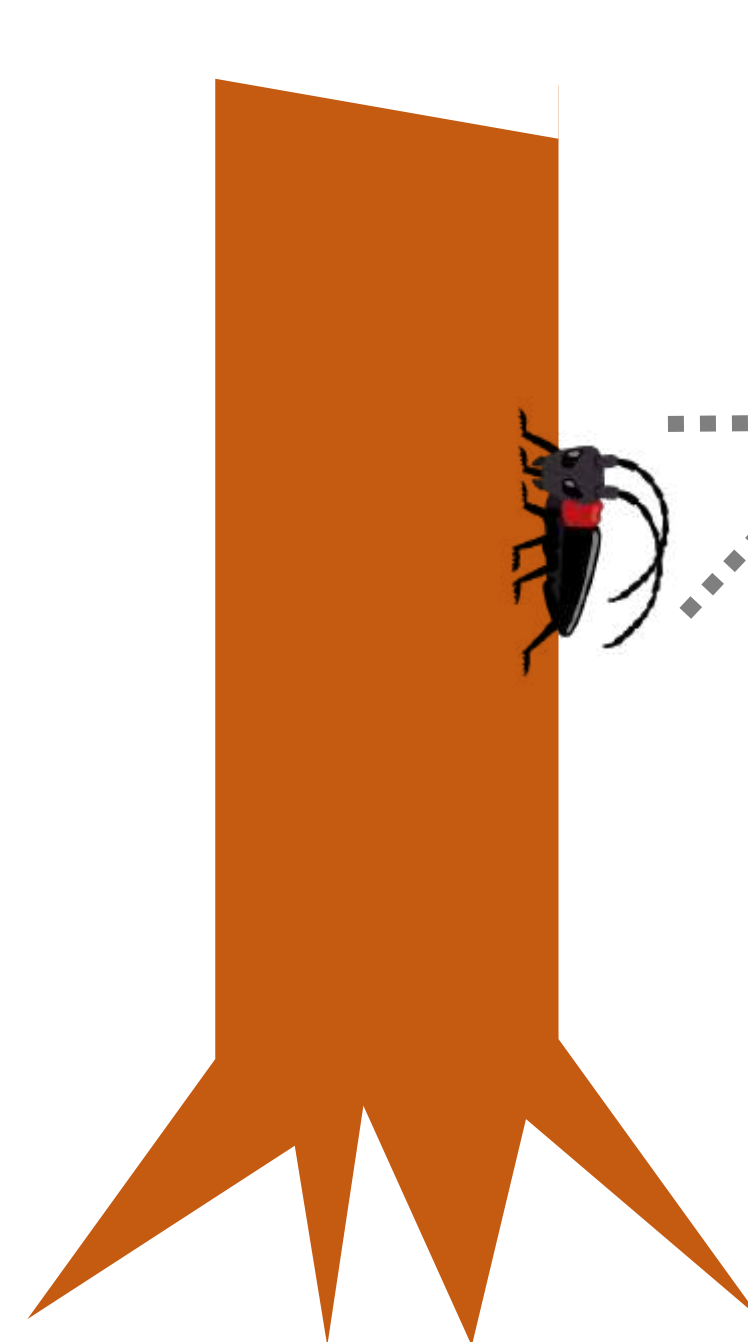
散布（樹幹散布）



【処理時期】 6～8月
(成虫発生期)

希釈した薬液を木全体に複数回処理。成虫は樹皮の割れ目に産卵することから、殺卵効果も期待し、樹皮の凹凸にも浸透するように丁寧に散布。

噴射（エアゾール剤噴射処理）



【処理時期】 6～8月
(成虫発生期)

薬液を成虫に直接噴射。虫に触れずに殺虫することが可能。

幼虫対策

樹幹注入(サクラのみ可能)



【処理時期】 原則 4～9月
(落葉期を避ける)

電動ドリルで薬剤の注入穴をあけた後、薬液を注入。浸透した薬剤成分を木の中にいる幼虫が取り込むことで効果発揮。

フラス排出孔に注入



【処理時期】 4～11月
(幼虫フラス排出時期)

排出孔に詰まっているフラスを千枚通しなどで掻き出してから、薬液を注入し、木の中にいる幼虫を直接殺虫。

被害木の伐採および処分

【伐採時期】 9月から翌年4月
(成虫の脱出時期を避ける)

被害木の伐採・破砕あるいは焼却処分は、被害拡散防止の観点で、最も有効な対策。枯死・衰弱木は、倒木や落枝が発生しやすくなることから、早期の伐採を推奨。



切株を極力残さないように、出来るだけ地際で伐採。地際で伐らないと、切株に残った幼虫はやがて成虫になって脱出する。

